

第6学年〇組 図画工作科学習指導案

平成26年〇月〇日(〇)第1・2校時

場 所 図工室

指導者 教諭 横尾 健一

1 題材名 「墨のうた」 A表現(2) B鑑賞(1)

2 題材について

(1) 児童の実態

この時期の児童は、好みや行動などに個性的な面が育ってくる。また、相手の立場から物事を見たり、考えたりするようになり、学校や家族の一員としての意識をもち始め、他の人の気持ちを考えながら行動するようになる。小学校段階のまとめの時期であり、造形活動では手などの働きに力強さや巧みさも表れ、それまでの様々な造形体験から、表現の緻密さや構想の大胆さなど、それぞれの児童のもつ個性がより一層表れてくる。

本学級の児童はたいへんやさしい児童が多く、仲間と協力して活動したり、相手の行動をあたかな目でみたりすることができる。仲間通して認め合うことができる一方で、自信をもって積極的な行動をすることに苦手意識をもつ子も少なくない。発想や構想の能力を生かし作品への取り組み方を共有し認め合いながら、表現することに楽しさや喜びが感じられるような活動を展開していきたい。

図画工作科の学習に対しては意欲や関心の高い児童が多い。6年生になってから、図画工作科の学習が教科担任制となり、新たな気持ちで表現する活動を楽しもうと学習に意欲的にのぞんでいることが感じられる。学級全体で楽しいことに取り組んでいるという高揚感の中で、集中して材料と向き合いたい。

本題材では、和紙と墨、白と黒だけのシンプルな投げかけから、気持ちのおもむくままに表す快さを味わわせたい。そこから生まれてくる形や軌跡を大切に、組み合わせの美しさやおもしろさに気づけるような指導方法の工夫を行っていきたい。

(2) 本題材を指導するに当たって

筆やはけ、身のまわりの材料を筆代わりにするなどしていろいろな表現を試みることに加え、墨の濃淡、色合い、香り、にじみ、かすれ、たれ、はねなど、かかれたもののよさや美しさ、快さなどを感じ取って表す内容である。

本題材の製作を通して、児童が心を開き、材料や自分自身、友だちなどとかかわり合うよさを知ることができるだろう。墨や筆、和紙の特徴を知って、その扱い方を工夫したり効果を確かめたりしながらかくことで、かく楽しさや快さなどを感じ取って表すことができるとともに、造形的なものの見方や考え方を養うことができると考え本題材を設定した。

3 学習指導要領上の位置付け

A表現(2) 感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する。

ア 感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから、表したいことを見つけて表すこと。

イ 形や色、材料の特徴や構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、表し方を構想して表すこと。

ウ 表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表現に適した方法などを組み合わせることで表すこと。

B鑑賞(1) 親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を指導する。

ア 自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、暮らしの中の作品などを鑑賞して、よさや美しさを感じ取ること。

イ 感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえること。

〔共通事項〕 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。

イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

4 学校研究主題との関連

(1) 研究主題

研究主題 一人一人が分かる喜びを実感できる授業づくりの研究 副題 算数科を中心としたユニバーサルデザインの授業づくり

本校の学校教育目標は、「考える子 心豊かな子 体をきたえる子」である。

本校の子どもたちは落ち着いた環境の中で学習に取り組んでおり、学校評価アンケートや学習状況調査の結果の分析からも、学力状況においては、基礎的・基本的な知識・理解の習得は概ねできているといえる。一方で知識・理解の習得に個人差が大きく、主体的に学ぼうとすることに「困り感」を感じている児童もいる。そこで、本校に必要なことは「困り感」を抱えた児童にも、そうでない児童にもやさしい授業づくりを行うことであると考えた。

どの子どもも楽しく「わかる・できる」授業を実践していく、というキーワードから注目したのがユニバーサルデザインの考え方である。このユニバーサルデザインの考え方や基礎となる子どもの把握の仕方を研究することで、わかる喜びを実感する学習の積み重ねができ、学習意欲の高まりが学校教育目標を具現化につながるだろう。主要教科である算数科を中心としてユニバーサルデザインをどう生かすかという指導方法を習得し、視点をよりはっきりさせるために「視覚化」「焦点化」「共有化」に焦点をあて授業改善に取り組んでいきたい。

「多くの子どもたちに効果のある指導方法・環境づくり」を教師が分かち合い、「シンプルで効果的な楽しい授業」を目指すことで、取り組みは長続きし、学習効果も増すと考え、本研究の主題、副題を設定した。

(2) 仮説

- 1 ○小ならではのユニバーサルデザインの理論を確立し、全職員で共通実践を行えば教師の授業力が向上し、すべての児童が分かる・できる授業を行うことができるであろう。
- 2 各学年で児童の実態を把握し、ユニバーサルデザインの視点に立った授業をすれば、すべての児童の学習意欲と学習効果を高めることができるであろう。

(3) 手立て

ア) 導入の工夫

～**焦点化・複線化**による発想や構想の能力（**思考力・判断力・表現力**）の向上～

- ①材料・用具の特徴や扱いについて、実物や写真を児童に提示しながら話し合い、材料への理解を深めさせる。その後はいつでも確認できるように板書として掲示をする。
- ②活動の手がかりとなるような言葉を教師が意図的に使い、板書することで製作への意欲や期待感を高めるとともに発想や構想に大切なイメージをもたせていく。
- ③実際に筆を使ってかいている場面の動画や写真を提示し、表現する感じを確かめたり、そのイメージを自分でもったりするための支援とする。

イ) 支援の工夫

～**複線化・共有化**による創造的な技能（基礎的・基本的な知識・技能）の向上～

- ①教師が用意する材料・用具についてはひとつの場所に分かりやすく整頓して並べ、扱いや特徴についてひと目で分かるように簡単な説明とともに置くようにする。
- ②筆などの道具の扱いについて、効果的な技法やアイデアあふれる使い方をしていく児童の活動を動画や写真を使って共有する。
- ③共同製作をするなどダイナミックな表現にも取り組ませるため、図工室内には活動に十分なスペースを確保する。

ウ) 鑑賞の工夫

～**共有化**による鑑賞の能力（基礎的・基本的な知識・技能及び**思考力・判断力・表現力**）の向上～

- ①自分の作品や友達作品について、個別の発想の違いや工夫に気づき、楽しめるようにするため、互いに見せ合ったり話したりする鑑賞の時間を製作中に設ける。
- ②製作過程において、個々の取り組みや発想のよさを他の子どもたちに紹介することで、児童それぞれの工夫を認めるとともに、友だちのよさを参考にしながら自分の表現方法に取り入れさせる。

5 「教育に関する3つの達成目標」との関連

(1) 規律ある態度

- 授業や活動の始まる時刻を守ることができる。
- 用具の準備や片付けをしっかりとおこなって、授業にのぞむことができる。

(2) 学力

- 目的に応じて用具や材料を選んだりよさを生かしたりして、様々な表現の方法を試すことができる。

6 本題材の目標及び評価規準

(1) 目標

墨や和紙、筆などの特徴をつかみ、扱い方を工夫したり効果確かめたりしながらかくことを通して造形的なものの方や考え方を養う。

(2) 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
墨を使ってのいろいろな表し方に関心を高めている。	画面の組み立て方や配色を、かきながら考えたり試みたりする。	墨や筆の扱い方を工夫し、その効果確かめながらかく。	友だちの作品を見て、そのよさや美しさを感じ取る。

7 指導と評価の計画（4時間扱い 本時3／4）

時間	学習のねらい・学習活動	学習活動に即した評価規準
1	○題材について知る。 ○墨を使って、気のおもむくままに表現する活動の心地よさを味わう。	○墨を使ってのいろいろな表し方に関心を高めている。【関】
2	○さまざまな用具を使って表し方を試し、試みの中から発想する。 ○紙の大きさを選び、よさや美しさなど、思いをめぐらせて工夫して表す。	○画面の組み立て方や配色を、かきながら考えたり試みたりする。【発】 ○墨や筆の扱い方を工夫し、その効果確かめながらかく。【創】
③		
4	○鑑賞する。	○友だちの作品を見て、そのよさや美しさを感じ取る。【鑑】

8 本時の学習（本時3／4時）

(1) 目標

- 画面の組み立て方や配色を、かきながら考えたり試みたりする。……………【発】
- 墨や筆の扱い方を工夫し、その効果確かめながらかく。……………【創】

(2) 準備

- 教師：和紙（半紙、障子紙などで、礬砂引きを施していないもの）、はけ、墨汁、染料
- 児童：教科書、筆、墨汁、たわし、枯れ草など筆代わりになる身近材料、新聞紙、動きやすく汚れてもよい服装（エプロン・体操着等）

(3) 展開

過程時間	学習活動 予想される児童の具体的な姿（「」）	指導の工夫 【共】：【共通事項】に係わる内容 ※：言語活動に関する指導上の留意点	評価と手立て 【観点】：評価規準、【評価方法等】 ◆：C判断児童への手立て	準備
導入 8分	1 墨汁で薄墨をつくったり、筆などの準備をしたりする。 「何段階かの濃さをつくるのはけっこう難しい。」	○ 前時で製作した実際の障子紙などを見せたり、ビデオや写真などで活動を振り返ったりしながら、本時の活動のための準備の参考とする。 ※ 活動の手がかりとなるような言葉を使って話し合う。板書に残す。	【観点】：評価規準、【評価方法等】 ◆：C判断児童への手立て 前時の作品	大型テレビ 前時の活動の様子が分かる写真・ビデオ 前時の作品
				
				
	導入時板書		ビデオ	

提案 墨と和紙のいい感じをみつけよう

2 用具を選びながら、さまざまな方法を試みる。

「太いはけを使って、こんな線ができた。」
「細長い紙にかいてみたよ。どんどん広がっていくからおもしろいな。」
「にじみの感じをうまくだしたいな。水の量を変えてやってみよう。」



児童の表現の工夫を
紹介・共有

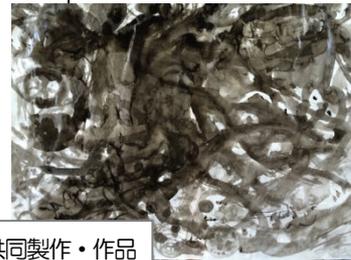


互いの活動から感じた
ことを話し合う

- 墨でかく活動を通して、描いた線や形の感じをとらえる。 【共】
- 道具の特徴を試しながら生かすことが、魅力ある表現につながることを伝え、試行錯誤しながら表現させるようにする。
- 自分の表したい墨での表現のイメージをもつ。 【共】
- 様々な表現の可能性を追求させるために、薄墨用の容器や筆の代わりになる用具は、児童が用意したものに加え教師も十分な数を確保し、製作するスペースについても広く余裕をもって動けるよう注意をはらう。
- ※ 表現や活動の様子を観察したり、対話したりしながら、児童の活動への思いや願いを共感的にとらえるようにする。
- ※ 製作中に互いの活動から感じたことを話し合う時間を状況に応じてとるようにする。
- 活動に広がりや深まりが表れるように、道具の使い方をともに考えたり、新たな発想で表現方法を工夫している児童を紹介したりしていく。また、あらわしたい思いや願いにそって、線などの形やイメージにこだわり、試行錯誤しながら表現を追求している児童を称賛するとともに、その姿を紹介していく。
- 共同で作品をつくりたい児童のために、図工室の中にスペースを確保しておく。



共同製作・作品



発画面の組み立て方や配色を、かきながら考えたり試みたりする。【表現・対話】

◆：発想が浮かばず、思いが滞っている児童には、道具と紙の組み合わせを試させたり、対話のなかで言語化したりしながらイメージをもてるようにする。

創墨や筆の扱い方を工夫し、その効果確かめながらかく。

【表現・行動観察・対話】

◆：筆だけや、ひとつの濃さの墨だけでかいている児童には、他の道具や何種類かの濃淡の薄墨を試させるなど、個別に具体的な声かけをおこなう。

◆：表現された線などの特徴を表すキーワードなどを投げかけながら、考えさせたり一緒に試したりする。

展開
32分

整理
5分

3 本時の学習の活動を振り返り、自分の学習の状況を確認する。

4 協力して後片付けをする。

- 墨や紙、筆などの特徴を生かした表し方に関心をもっている児童を称賛する。
- ※ 互いの活動を見ながら発表し、活動の中で感じたことや満足感を振り返るようにする。
- 道具の片付けは後の手入れがしやすいように、丁寧に行うようにする。余った墨は紙に吸い取らせてごみとして捨てるなど、片付けの大切さに気づかせる。

9 備考

- (1) 在籍児童数 35名
- (2) 板書計画

墨のうた 墨や筆、和紙の特ちょうを知って、かくことをたのしむ

墨と和紙のいい感じをみつけよう

前時の活動で製作したもの

作例写真

作例写真